

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴

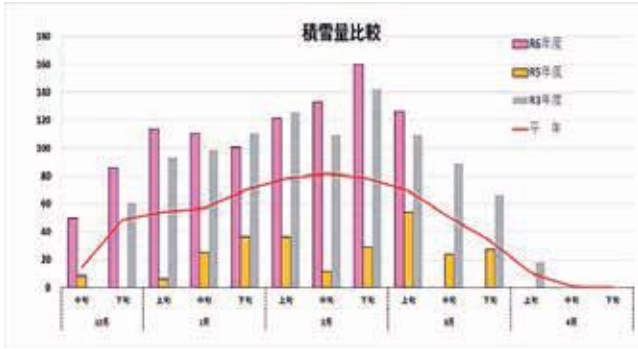


●雪深、前年の2倍以上

J A相馬村管内における3月上旬の平均積雪量は126cmで記録的に少なかった昨年と比べて72cm上回っています。また、積雪量は令和3年度と類似しています。尚、令和4年における1回目の薬剤散布（展葉一週間後頃）は、生態が早い地区で4/21～23頃でした

令和6年度JA相馬村積雪量調査

(単位: cm)



(前年4/18頃)。今後は、春作業に向けてSS走行路の確保等も視野に剪定枝の片付けも実施しましょう。

●マメコバチ収容も視野に

早い年だと3月末にはマメコバチが筒内活動期に入ります。マメコバチの冷蔵庫への収容も見据えて作業を進めましょう。また、花芽不足や弱小芽が多く見られる園地では、特に人工授粉による結実確保に努めましょう。



畜圧式スプレー
(剪定時の持ち運びにも便利)

●SS防除開始に向け、防除用水とSS走行路の確保は早めに

昨年を振り返ってみますと、J A相馬村管内の生育が早いところでは4月12日に「ふじ」の展葉が確認され、展葉一週間後頃の薬剤散布は4月18日から開始されています。一部園地では防除用水の確保が間に合わず、適期散布が遅れたところも伺えました。今後の気温によって生育の早まりが予想される場合は天気予報を注視し、剪定枝の後片付けなども早めに進めてSS走行路の確保に努めましょう。尚、雪解け水等により園地の地盤が緩んでいる場合は非常に危険です。園地の状況把握に努め、無理なSS防除は行わないこととし、安全第一を最優先として下さるようお願いいたします。

※本年から防除暦に「発芽前」の特別散布が新設。防除用水の確保が間に合わない場合や園地の地盤が緩んでいて走行が危険な場合は、背負動力噴霧機を活用するなどして対応することも視野に入れましょう(発芽前)。

●りんご病害虫防除暦(第1回目)

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
特散	300ℓ	発芽前	ハーベストオイル	50倍	●ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、発芽前にハーベストオイル50倍の特別散布を実施する。その場合、リンゴハダニ越冬卵を対象とした展葉一週間後頃のハーベストオイルの散布は必要ない。
1	300ℓ	展葉1週間後頃	ベフラン(液) バリアード(顆水) ハーベストオイル アブロード(F)	1,000倍 4,000倍 200倍 1,000倍	●昨年リンゴハダニの発生が目立った園地では、ハーベストオイルの散布を丁寧に散布する。 ●混用順序 ①水→②ハーベストオイル→③ダズバンDF→④ベフラン(液)

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。2月の果実販売動向をお伝えします。

イチゴについては栃木など関東産・愛知県産は比較的安定した入荷になったものの、九州産は寒波の影響を強く受けて入荷が安定しませんでした。そのような中で一部市場では売り場を確保してもらうために売価を下げての販売に踏み切り、順調な荷動きとなりましたが、売価高が継続された市場では入荷の不安定さも相まって緩慢な荷動きとなりました。ただし月の後半には連休やひなまつり需要に向けての企画が組まれ、多くの市場では堅調な価格を維持しながらも引き合いが強まっています。

となりました。

リンゴについてはサンふじの産地在庫が昨年同時期と比較して少なくなっており、入荷量が限定的となりました。月の前半はこれまでの売価高から売り場は広からず、末端での消費も停滞していることから市場段階での在庫を抱えた中での販売となり、価格は弱含みで推移しました。月の後半には消費宣伝会や企画販売を行う量販店が増加し、規格の中心となる36玉・40玉については引き合いの回復が見られたものの、規格の少ない大玉果については荷動きの鈍い状態が続いたため市場在庫の解消には至らず、前半から引き続き価格は弱含みでの販売となりました。また、サンジョナ・王林などサンふじ以外の品種が業者関係から多く出回り、それらに関しては引き合い以上の入荷量となったため価格が下げ基調での販売となりました。

今後の展開ですが、イチゴについては各産地順調な入荷が予想され、価格を抑えた企画販売が多く実施されます。2月中は入荷が少なかった市場でもこれまで少なかった分、大玉果の比率が高くなる見通しで、売り場の拡大はさらに進んでいくと思われます。

中・晩柑類については総体量が少なく売価高の状況が続き、末端消費の停滞から荷動きの鈍い状況が続く見通しです。

リンゴについては系統ではCA貯蔵品への切り替えが進む中、業者関係からは普通冷が引き続き出荷される見通しです。普通冷に関しては市場でも在庫を抱えている状況ですが、品質懸念からそちらへの引き合いは弱くなる見通しで、全体的な荷動きの回復にはまだ時間がかかると考えられます。末端での果実売り場の展開は3月は好調なイチゴが中心の売り場作りになると思われ、リンゴについては徐々に価格が下がりながらの厳しい販売となる予想です。今年はリンゴの販売に関しては例年以上に出荷時期の見極めが難しい年となっております。引き続き品質管理を徹底し、市場動向を見極めながら、有利販売に努めてまいります。

全農あおもりデータ（2／28累計）

品 種	サンつがる	早生ふじ	ト キ	きおう	王 林	シナゴールド	サンジョナ	サンふじ	その他	合計
単 価 (円)	2,975	4,196	3,459	3,240	4,327	4,384	4,610	4,730	4,077	4,127
前 年 比 (%)	90	96	94	104	107	110	110	123	116	109
販売数量 (箱)	738,116	495,063	201,444	116,370	292,390	24,037	192,783	1,972,987	682,129	4,715,347
前 年 比 (%)	120	94	113	76	97	122	106	90	107	99

※10kgダンボール1箱当たりの数値となります